

事実が現実で、現実が真実だって？　じゃ、何も彼もが正しいってえのかい。いや、いや、そうじゃないよ。それが正しくないということも、現実じゃないか。じゃ、何もないと同じだ。それは、そうじゃないですか。だって、現実には、どこにも境界線や輪郭線がありませんから。

明日、学校に行きたくないと思う時、逝きたくない学校が事実、真実。逝きたくない自分の気持ちが事実、真実。そう思うと、不思議と昂揚し、気のせいかな、逝く気になって来なくもない。けど、その朝になると、昂揚は無力で、どうでもよくって、ただ、逝きたくない。心が苦しくて、全然救われていない。嫌だ、ただ、それ丈。

だが、その何も解決していない、容れられていない気持ちのまま、滅入って登校していても、それ丈が事実で、真実だ。

昂揚して、嫌を、嫌なままに虐的に逝けば、それ丈が事実で、真実だ。

僧、龍巖師が侘茶で、優しく茶碗を差し出し、「それが空というものです」と言うが、そののどかな顔では、現役真っ只中の人の苦は分かるまいよと思う丈でしかない。

もしも、それが空でないなら、それが空です。だから、事実が空です。行動が空です。つまり、行動は空ではありません。事実は空ではありません。ただ、現実が在る丈です。

彼女が言うことは、友だちにうまく伝わらなくて、○○してはどうかと言っているのに、△△ちゃんが、違う、そうじゃないよ、○○しなくちゃダメじゃないの、そのくらいわからないの、と言われる。彼女は何も言えない。皆、△△ちゃんに味方する。悔しさ。憤り。けど、怖い。逝きたくもない。ちゃんと説明しようとすれば、もっと酷くなる。赦したり、仲良くしたりしようとすれば、異様で、もっともっとおかしくなる。心臓がつぶれそうなまま、どうにか逝くけど。